670A02111A

取扱説明書

このたびは、ＳＡＮＷＡ　２.４ＧＨｚ ＲＸ－３７１レシーバーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、本製品を安全にご使用いただくために、取扱いに関する手順、注意事項について説明しています。
本製品の性能を充分発揮させるために、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、正しくお取扱いいただくようお願い申し上げます。　なお本書はお読みになった後も、いつでも読めるように大切に保管してください。

⚠ 注 意　安全に使用していただくための注意事項

●本製品はM11X、ＴＭ-２２２ＤＳ（２.４ＧＨｚ帯スペクトラム拡散方式モジュール）を装着したM11、EXZES PLUSまたはMX-3G、BLAZER-Gで使用することができます。その他のＡＭ/ＦＭプロポには使用できません。
●ＲＸ-３７１（２.４ＧＨｚ帯スペクトラム拡散方式レシーバー）について、本製品はＳＡＮＷＡ製２.４ＧＨｚ帯プロポ専用です。その他のＡＭ/ＦＭプロポには使用できません。
●２.４ＧＨｚ帯はラジオコントロール専用の周波数ではありません。この周波数帯はＩＳＭ（産業、科学、医療）バンドと共用されているので、都市部では電子レンジ、無線ＬＡＮ、デジタルコードレス電話、オーディオ機器、ゲーム機や携帯電話のBluetooth、VICSなどの近距離通信の影響を受ける可能性があります。またアマチュア無線、移動識別用構内無線にも使用されているため、これらの影響に注意をして使用してください。なお、既存の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は、速やかに電波の発射を停止し干渉回避対策をおこなってください。
●ＲＣサーキット等では２.４ＧＨｚシステムに影響を与える可能性のある機器の使用を最小限にし、必ず事前に安全性の確認をおこなってください。また、施設管理者の指示に従ってください。
●建物や鉄塔などの後ろを走行(航)させたときのように電波の到達方向を遮へいすると、操縦レスポンスの低下や操縦不能になる可能性があります。常に目視で確認出来る範囲で走行(航)してください。
●日本国内では、技術適合証明試験を受け、認証番号を記載した技術適合証明ラベルが貼られているプロポやモジュールが使用できます。技術適合証明ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。
●海外からの輸入品等の場合で、技術適合証明ラベルが貼られていないプロポやモジュールを日本国内で使用することはできません。電波法違反になる場合があります。
●(財)日本ラジコン電波安全協会では、ラジオコントロールに使用する電波を安全に使用していくための啓発をおこなっています。同協会の名称の入った技術適合証明ラベルが貼られているプロポやモジュールの使用を推奨します。

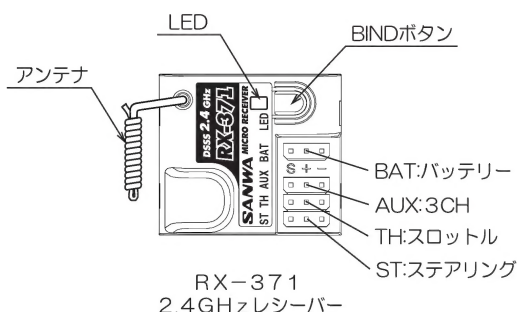
※技術適合証明ラベル

⚠ 注 意　安全に使用する際の注意事項

■レシーバーは精密機器です。強い衝撃や振動をあたえないでください。厚手のスポンジ等を使用し、防振対策をおこなってください。
■レシーバーのアンテナ線はできるだけ外へ出し、まっすぐ立てて張るようにしてください。余分な長さを切断したり、折り返したりしないでください。
■レシーバーのアンテナ線はモーターコードやバッテリーコードなどのノイズ源に近づけないでください。
■金属シャシーやカーボンシャシーにレシーバーを搭載する場合は、両面テープなどを重ねて使用し、できるだけシャシーから離してください。

2.4GHz　RX−371レシーバーの特長

●２.４ＧＨｚ帯スペクトラム拡散方式採用
●電源投入時に２.４ＧＨｚ帯の空き周波数チャンネルを自動的にサーチするので、従来の周波数のようにバンドの重複がありません。
●モジュール固有のＩＤコードをレシーバーに認識させることにより、他の２.４ＧＨｚ送信機、モジュールからの信号をレシーバーが受信しません。
●レシーバーが電波を受信できないような状況になった場合には内蔵のフェールセーフ機能が働きます。

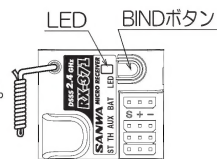
2.4GHz　各部の名称と取扱について

ＲＸ－３７１
２.４ＧＨｚレシーバー

ＲＸ－３７１レシーバーの取扱い

●レシーバーは精密機器です。強い衝撃や振動をあたえないでください。厚手のスポンジ等を使用し、防振対策をおこなってください。
●レシーバーのアンテナはできるだけ外へ出し、まっすぐ立てて張るようにしてください。余分な長さを切断したり、折り返したりしないでください。
●レシーバーのアンテナ線はモーターコードやバッテリーコードなどのノイズ源に近づけないでください。
●金属シャシーやカーボンシャシーにレシーバーを搭載する場合は、両面テープなどを重ねて使用し、できるだけシャシーから離してください。
●レシーバーが水没した場合は、すぐに回収して内部を乾燥させてください。乾燥後、正常に動作しても念のために最寄りのサービスへ点検にお出しください。
●AUXのチャンネルはBLAZER-Gでは使用できませんのでご注意ください。

2.4GHz BIND（バインド）の設定方法

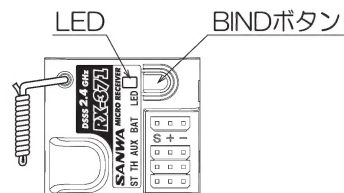
※BIND（バインド）とは：2.4GHz送信機、TM-222DSモジュールはそれぞれ固有のID（固体識別）番号をもっていて、
そのID番号をレシーバーに記憶させること（BIND/バインド）です。BIND設定した2.4GHｚ送信機、TM-222DSモジュールと
レシーバーのセットでしか動作しないようになります。

①2.4GHｚ送信機、TM－222DSモジュールが装着されている送信機の電源SWをONにします。
②RX－371レシーバーのBINDボタンを押しながら、レシーバー側の電源SWをONにします。
③RX－371レシーバーのLEDがゆっくりとした点滅になるのを確認したら、レシーバーのBINDボタンを離します。
④レシーバーのLEDが高速点滅になるまで2.4GHｚ送信機、モジュールのBINDボタンを押してください。
⑤BIND設定が完了したらレシーバーのLEDが点灯します。
⑥動作させてBIND設定が完了したことを確認してください。
※BIND設定の途中でレシーバーのLEDが消灯してしまったり、BIND設定が完了しない場合は①の作業からやり直してください。

⚠ 注意

■出荷時にはBIND設定されていませんので、ご使用になる前に必ずBIND設定をおこなってください。
■M11やEXZES PLUSでBIND設定をおこなったあとで、送信機のチャンネル設定を変更（2ch→4ch、4ch→2ch）した場合は
再度BIND設定をおこなってください。
■新たにレシーバーを購入された場合は必ず新しいレシーバーとBIND設定をおこなってください。
■必ずBIND設定した送信機/モジュールとレシーバーのセットでお使いください。

2.4GHz フェールセーフの設定方法

※フェールセーフとは、レシーバーが電波を受信できないような状況になった場合にあらかじめスロットルサーボやFETスピードコントローラーの
スロットルポジションを設定しておいてRCモデルの暴走を防ぐ機能です。
2.4GHｚ送信機、モジュール/レシーバーのBIND設定が完了したら、フェールセーフの設定をおこなうことができます。
①送信機の電源SWをONして、モジュールのLEDが点灯していることを確認してください。
②受信機側の電源SWをONして、レシーバーのLEDが点灯していることを確認してください。
③送信機を操作して、サーボが動作することを確認してください。
④フェールセーフを働かせたい位置にスロットルトリガー（スティック）を操作して、
そのままの位置を保持しながらレシーバーのBINDボタンを押します。
そのままBINDボタンを押しつづけて、レシーバーのLEDがゆっくりとした点滅に
なるのを確認してください。
⑤レシーバーのLEDが高速点滅になったら設定は完了ですので、BINDボタン、スロットル
トリガー（スティック）を離してください。
⑥送信機の電源SWをOFFしてフェールセーフが適切に動作するか確認してください。
動作確認できましたら送信機の電源SWをONしてサーボが操作できることを確認してください。

LED　BINDボタン

⚠ 注意

●安全のため、フェールセーフの設定を必ずおこなってください。
●フェールセーフの設定をおこなったあとでBIND設定をおこなうと、フェールセーフの設定がクリアされますので、再度フェールセーフ設定を
おこなってください。
●レシーバー側の電圧が低下した場合にはフェールセーフ機能は動作しません。
●フェールセーフの機能はスロットルにのみ動作します。

2.4GHz 修理について

調子が悪いときはまずチェックを！。
修理に出される場合は、故障状況を詳しくご記入の上、お近くのサービスへ修理依頼してください。
また、ご質問、お問い合わせがありましたら、お近くのサンワサービスにて受付けております。
電話でのお問い合わせは土曜、日曜、祝祭日を除くAM9：30～12：00、PM1：00～5：00です。

修理依頼カード　このカードに故障状況を詳しくご記入のうえ、必ず製品と一緒にお送りください。

フリガナ
お名前　　　　**電話**　（　　）

〒
ご住所

故障状況

三和電子機器株式会社
本　社/東大阪市吉田本町1丁目2-50
〒578-0982 TEL072（964）2531
東京営業所/東京都台東区浅草橋3-18-1（KKKビル）
〒111-0053 TEL03（3862）8857
〈本社サービス〉東大阪市吉田本町1丁目2-50
〒578-0982 TEL072（962）2180
〈東京サービス〉東京都台東区浅草橋3-18-1（KKKビル）
〒111-0053 TEL03（3862）8858